

令和8年度
第1回 学校運営協議会



令和8年4月9日(木)入学式

令和8年4月28日(火)13:40～

浜松市立浜名小学校

- 1 日 程 13:40~14:00 授業参観
 14:00~15:30 開会 協議
 15:30~15:40 連絡事項 閉会

2 次 第

- (1) 校長挨拶
- (2) 新規委員任命書交付
- (3) 自己紹介
- (4) 学校運営協議会規則確認
- (5) 会長選出、副会長指名
- (6) 議長の選出
- (7) 前回会議録
- (8) 令和7年度協議会自己評価の確認
- (9) 熟 議

- ① 学校経営方針、いじめ防止基本方針・・・校長
- ② 教育活動計画・・・・・・・・・・主幹教諭
- ③ 夢育やらまいか事業・・・・・・・・・・教頭
- ④ 部別協議

	委 員	オブザーバー	学 校
1 課題検討部	松島一博 望月聡太 内山益巳	渡辺東作 平野岳子	河合勝之
2 地域体験部	森上彩加 窪谷彩子 澤木繁暢	町田幹子 石井大三	湯川靖彦
3 学校支援部	本多高次 平野欽嗣 金子まなみ	渡邊涼子 高林 正	小野芳敬

- 学校経営方針について
- 今年度の活動
- 活動をより広めるために

- ⑤ 部別報告
- ⑥ 全体協議

3 連絡事項

- ・ 今後の予定

- 9月9日(水) 1学期の評価を受け今後の活動について検討
- 12月11日(金) 学校で行う評価を行い、活動を振り返る
- 2月9日(火) 1年間の活動を振り返り、来年度の目標を考える

第1回 学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

	〇〇 〇〇 ※ふりがな
会長	松島 一博 まつしま かずひろ
副会長	望月 聡太 もちづき そうた
委員	内山 益巳 うちやま ますみ
委員	森上 彩加 もりがみ あやか
委員	窪谷 彩子 くぼや あやこ
委員	澤木 繁暢 さわき しげのぶ
委員	本多 高次 ほんだ たかじ
委員	平野 欽嗣 ひらの きんじ
委員	金子 まなみ かねこ まなみ

オブザーバー

元学校支援コーディネーター 前学校運営協議会委員	町田 幹子 まちだ みきこ
前学校運営協議会委員	高林 正 たかばやし ただし

学校支援コーディネーター

学校支援コーディネーター	渡邊 涼子 わたなべ りょうこ
--------------	-----------------

学校

校長	河合 勝之 かわい かつゆき
教頭	小野 芳敬 おの よしたか
主幹教諭	湯川 靖彦 ゆかわ やすひこ
CSディレクター	足立 香代 あだち かよ

令和7年度 第4回 浜名小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月10日（火）（13時40分から14時00分まで授業参観）
14時00分から15時40分まで
- 2 開催場所 浜名小学校 多目的室
- 3 出席委員 加藤弘明、高林 正、平野岳子、渡辺東作、森上彩加
石井大三、片桐光一、町田幹子
- 4 欠席委員 野末将平
- 5 オブザーバー 内山益巳、中道三枝子
- 6 学校支援コーディネーター 金子まなみ、渡邊涼子
- 7 学 校 河合勝之（校長）、伊藤 充（教頭）、湯川靖彦（主幹教諭）
- 8 教育委員会 なし
- 9 傍 聴 者 0名
- 10 会議録作成者 教頭 伊藤 充
- 11 議長の選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、高林委員から会長を議長に推挙する旨の発言があり、協議の結果全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

- (1) 本年度の教育活動・来年度の改善について
- (2) いじめ認知の状況について
- (3) 来年度の教育方針について
- (4) 部別協議

学校運営協議会自己評価表をもとに反省

- ・課題検討部（加藤、平野、渡辺、金子、校長）
- ・地域体験部（高林、石井、渡邊、主幹教諭）
- ・学校支援部（町田、片桐、森上、内山、中道、教頭）

- (5) 各部報告・全体協議
- (6) その他

- ①夢育やらまいか事業・CS加算分報告
- ②運営協議会委員の交代について
- ③来年度の予定について

13 会議記録

会長から委員総数9名のうち8名の出席があり、過半数に達するため会議が成立している旨の報告があった。

- (1) 主幹教諭から別紙資料を基に本年度の教育活動の報告と来年度の改善点について説明があった。

○週の授業時間数を最大28時間に設定することで、ゆとりのある週日課にする。

○最初の教育相談を7月に行ったが、来年度は早い時期に行いたいという意見から4月に変更

○運営協議会の開催曜日や時間帯を分散させるように変更

委員からは以下の発言があった。

- ・週の授業数を減らすことでどのような効果が期待できるか。（平野委員）→ゆとりができる。
- ・教育相談を早目に実施することはよい。（加藤委員）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(様式1)

学校番号 (小69)

令和8年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(浜名小) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 協議会の取り組みを多くの場で発信し、活動の輪を広げていく。
- 児童からの思いを聞き、より効果的な活動に取り組む。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

令和8年度 浜名小学校学校経営方針

◇ 学校の概要

(1) 学校の沿革

明治初頭にあった小松尋常小学校（現在の小松地区）、内田尋常小学校（現在の内野地区）、平貴西尋常小学校（現在の平口地区）の3小学校が合併して、小野口村小松（現在地）に明治42年1月1日に、小野口尋常小学校が新設された。

昭和26年11月3日、町制が施行され、小野口村は浜名町になり、この町名から浜名小学校の呼称が誕生した。また、昭和38年の市制施行により、浜北市立浜名小学校と改称された。

昭和40年代の終わりごろから児童数が年々増加し、昭和50年代には1,500人を超えるマンモス校になっていたため、より快適な環境で学校生活を送れるよう学校分離を行い、昭和58年4月に内野小学校が誕生した。

また、平成の大合併により、新しい浜松市が誕生したことを受け、浜松市立浜名小学校に改称され、現在に至っている。本年度創立118年目となる。

(2) 校区の様子

校区は、商工業を中心とし開放的、都会的な雰囲気をもった小松地区と、兼業農家が多く純朴な雰囲気をもった平口地区とに大別される。また、馬込川と御陣屋川が流れ、地域に潤いを与えている。

平成19年度には平口地区に、平成20年度には校区東側に大型ショッピングセンターが建設され、区内外からの人の出入りが急増するなど、大きく変貌を遂げている。平成30年度より、浜名中学校がすぐ近くに移転し、小中の連携がより取りやすくなった。

地域の人々の学校教育に対する関心が高く、協力的で多くの方に教育ボランティアとして学校教育に参加していただいている。

自治会を中心に「青少年育成会」「子供会」「スポーツ少年団」が結成され、住民相互の連携、青少年の健全育成を目指している。

(3) 校歌・校章

浜名小の歌 ふるさとの歴史よ ふるさとを あたりし森のちあふれる 肩あはる希望をおいていく 浜名川の光を空高く しやちもかる虹 馬込川の光を空高く 腕かまの未へかけていく かがやの未来へかけていく 浜名川の未へかけていく のべもはる みどりにはまる 三方原ひらけいく	校歌 作曲 高橋喜久彦 作詞 木津文彦
--	---------------------------

浜名小校章



◇ 学校経営構想

I 経営の基底

1 現行学習指導要領をふまえた経営(7年目)

- (1) よりよい社会を創るために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の
実現
- (2) 確かな学力(知)・豊かな心(徳)・健やかな体(体)の調和のとれた「生きる力」の育成
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善の推進
- (4) 教育活動の質の向上、学習効果の最大化を図る カリキュラム・マネジメントの推進

2 市教育施策をふまえた経営 [前期計画《2025(R7)年度～2029(R11)年度》2年目]

- 基本理念 描く夢や未来の実現 主体性 多様性・包摂性 信頼・協働
- 目指す子供の姿
・自分らしさを大切にするこども ・他者と協働し、主体的に行動できるこども ・自己調整しながら、粘り強く取り組むこども
- 目指す教職員の姿
・こどもの自分らしさを受け止める教職員 ・愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員 ・専門性と指導力を磨き続ける教職員

3 本校の実態から

<本校の強み>

- 明るく素直な子が多い。
- 進んで友達のよいところを見つけたり、優しい気持ちで関わったりすることができる。
- 与えられた仕事をきちんとやり遂げるなど真面目な子が多い。
- 目標が明確ならば、それに向かって取り組むことができる。(学校行事等)
- 学習で、主体的に課題に取り組もうとする意識が高まっている。
- 保護者や地域が協力的である。(PTA 加入率ほぼ 100%、ボランティア活動への取組)
- 教職員間の協力体制が取れている。

<本校の弱み>

- 「さわやかなあいさつ」の2極化が進んでいる。(子 80%保 67%教 50%)
- 自己肯定感が低い子がやや目立つ。
- 集中力が続かないため、学習にじっくり取り組めない。
- 主体的に考え、創造していく力が弱い。(委員会活動等)
- 家庭環境や養育環境に課題がある子がどの学年でも見られ、その課題が子供に影響を及ぼしている。(不登校・登校しぶり、粗暴な言動)
- 廊下・階段の歩行や学校のルール等が守れない子が見られる。
- 発達に課題のある子への対応に苦慮するケースがどの学年でも見られる。

II 令和8年度の経営方針

1 目標について

(1) 学校教育目標

豊かな自分を創り出す子

(2) 重点目標と目指す子供の姿

知徳体	目指す子供の姿	具体的な手立て
力 ↑ 体 育 ↓ ぱ い	はりきって きたえ合う子	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活習慣の確立を目指した保健指導を継続する。 ・子供が自分なりの目標をもって、運動に取り組めるよう体育科授業を工夫し、外遊びを奨励する。 ・生活の中で、見通しをもって粘り強く取り組むことをしかけ、継続して認め励ます。
やる ↑ 気 い ↑ つ ぱ い	まなびを 深め合う子	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方・学習習慣が身に付くよう、見通しがもてるしかけをする。 ・自分の考えをもつ時間と、友達と学び合う時間を確保する。 ・「できた」「分かった」の喜びを実感できるような自己評価・相互評価・教師評価を工夫する。
やさ ↑ し さ い ↑ つ ぱ い	なかよく 助け合う子	<ul style="list-style-type: none"> ・「はマナー」を生活の中で継続して意識させる。 (さわやかあいさつ・廊下歩行・誰も一人ぼっちにしない) ・どの子にも居場所があり、活躍する場がある学級・学年集団をつくる。 ・いじめ・問題行動に対して迅速にチームとして対応する。

(3) 学校経営目標

笑顔あふれる学校 ～笑い顔・優しい顔・真剣な顔を目指して～

<目指す学校>

- ① だれもが安心できる学校 → “オール浜名”で
「通いたくなる学校（子供）」 「通わせたい学校（保護者）」
「信頼される学校（地域）」 「勤めたい学校（職員）」
- ② あいさつが自慢できる学校 → いつでも・どこでも・だれにでもあいさつができる学校に
- ③ 風通しのよい学校 → 確認・共有・協働
- ④ 危機管理意識の高い学校 → 素早く・誠実に・正確に、「報連相」の徹底
- ⑤ 謙虚に学び続ける学校 → 教職員としての資質・能力の向上

今年度のキーワード

※ “信頼関係” を構築する

子供 保護者 地域 職員

- ・信頼されるとはどういうことか…信じて頼りにされる存在とは
- ・信頼関係を築くための手立てはどうあるべきか…何を大切にするか

3 本校の教育課題における指導の重点

(1) キャリア教育を根幹に据えた教育課程

- ・ キャリア教育で育てたい4つの力(「かかわる」「みつめる」「ふかめる」「つなげる」)と学年ごとの具体的な目標を見直す。(キャリア教育年間指導計画・系統表、キャリアパスポート)
- ・ キャリアの視点に立った教育活動を実践する。

(2) 積極的な生徒指導の充実

- 学習指導と生徒指導を一体的に実践する。
 - 自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・安全安心な風土・心理的安全性の高い学級・学年経営を構築する。
 - ・ 学校生活の基本として、「時を守り 場を清め 礼を正す」に取り組む。
 - ・ 子供の自主性を引き出す。(子供の意見を大切にす、教育活動への参画)
- 全職員でいじめ対策に取り組む。(見逃しゼロ、早期発見・早期対応、丁寧な寄り添い)
→ 学校のいじめ防止基本方針の見直し
- 不登校傾向の児童を積極的に支援する。
- 「はマナー」や「浜名小よい子のきまり」等を形骸化させないよう、今一度見つめ、必要性を伝えるとともに、見直しを図る。
- 生徒指導上の事柄については、時と場を逃さず丁寧に指導する。

(3) 確かな学力をつける授業改革

- ・ 学習の基礎・基本としての「聴く」・「話す」を徹底する。
- ・ 「分かる・楽しい」授業を創造する。
- ・ 主体的に学習に向かう姿勢を育てる。
- ・ 自分の考えを深める対話の仕方を研究する。
- ・ 論理的思考力を身に付けるための手立てを工夫する。
- ・ 必要感のある ICT の効果的な活用を進める。

論理的思考力とは…
物事を筋道立てて考える力

- 「考察する力」
- 「解決する力」
- 「論述する力」
- 豊かな「発想力」

(4) 発達支援教育の推進

- ・ 教育的ニーズに応じた多様で柔軟な教育を進める。
- ・ 配慮を要する児童に寄り添い、その子に合った就学支援を慎重に進めると共に、専門機関、専門スタッフ（SC、SSW）、医療との連携を図る。
- ・ 授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。→個別最適な学び
- ・ 全職員が発達支援教育に関わる。

(5) 持続可能なコミュニティ・スクールの運営

- ・ 「よりよい学校」をめざすという目的を共有し、学校教育への参画意識を高める。
- ・ 学校の現状を理解してもらうとともに、よりよい学校づくりや職員の負担軽減のための具体的な方策について熟議する。(CS委員と学校職員の対話の機会の確保)
- ・ 保護者や地域住民と、教育目標や課題等を共有し、学校の思いを積極的に発信する。
- ・ 地域のひと・もの・ことを一層活用すると共に、地域に根ざした活動を取り入れる。
- ・ 学校運営協議会委員と、教職員や児童が交流する場を設定する。
- ・ 学校運営協議会委員の計画的な人選に努める。

4 働き方改革の視点から

(1) 業務の在り方を見直す

- ・ 学習指導、学校行事、学級・学年経営等では、量的負担部分での業務見直し
- ・ 情報発信の工夫 → 丁寧な説明と発信する情報の精査、タイミング
- ・ 校務における ICT の活用
- ・ 勤務サービスにかかわる申請や提出書類に関する期限の厳守

(2) 勤務時間を意識した働き方を進める

- ・ 教職員一人ひとりのタイムマネジメントを意識した取組→業務記録簿の点検・活用
「月 45 時間以内・年 360 時間以内の上限」
- ・ 年休の計画的な取得と割振勤務等の適正な取得

(3) 健康的で健全な職場環境づくり

- ・ 協力・協働体制の確立（お互いの頑張りを認め合える、弱音を吐ける→「お互いさま」の文化が根付く職場環境）
- ・ 複数体制・組織での対応（報・連・相の徹底、記録を残すことの習慣化、情報の共有化）
- ・ キャリア段階を意識した働き方（OJT 研修の活性化）
- ・ 健康意識の向上（自己管理能力の向上）
- ・ 職員間での声掛け運動
- ・ やりがいのある職場の雰囲気づくり

令和8年度 浜名小学校グランドデザイン

浜名中学校区の目指す子供像(健全育成会の目標) 「明るいあいさつで 豊かなふるさとをつくろう」

〈現行学習指導要領〉
-実施7年目-

- ・社会に開かれた教育課程の実現
- ・生きる力の育成(「確かな学力(知)」
「豊かな心(徳)」「健やかな体(体)」)
- ・「主体的・対話的で深い学び」
のための授業改善の推進
- ・カリキュラム・マネジメントの
推進

学校経営目標 笑顔あふれる学校

～笑顔・優しい顔・真剣な顔を目指して～

〈目指す学校の姿〉

- 1 だれもが安心できる学校
「子供が通いたくなる学校」 「保護者が通わせたい学校」
「地域から信頼される学校」 「職員が勤めたい学校」
- 2 あいさつが自慢できる(浜松-あいさつができる)学校
- 3 風通しのよい学校
- 4 危機管理意識の高い学校
- 5 謙虚に学び続ける学校

R8 キーワード
信頼関係の構築

〈第4次浜松市教育総合計画〉
-前期計画初年度-

〈基本理念〉

『描く夢や未来の実現』
主体性、多様性・包摂性、信頼・協働

〈目指すこどもの姿〉

- ・自分らしさを大切にすることも
- ・他者と協働し、主体的に行動できる
こども
- ・自己調整しながら、粘り強く取り
組むこども



【学校教育目標】

豊かな自分を創り出す子

教育課題における指導の重点

- ・キャリア教育を根幹に据えた教育課程
- ・積極的な生徒指導の充実(学習指導と生徒指導の一体的な実践、心理的安全性のある学級・学年経営、信頼関係の構築)
- ・確かな学力をつける授業改革
- ・発達支援教育の推進
- ・持続可能なコミュニティ・スクールの運営

重点目標

体育 力いっぱい	知育 やる気いっぱい	徳育 やさしさいっぱい
【目指す子供の姿】 はりきって きたえ合う子	【目指す子供の姿】 まなびを 深め合う子	【目指す子供の姿】 なかよく 助け合う子
〈具体的な手立て〉 ・健康的な生活習慣の確立を目指した保健指導を継続する。 ・子供が自分なりの目標をもって、運動に取り組めるよう体育科授業を工夫し、外遊びを奨励する。 ・生活の中で、見通しをもって粘り強く取り組むことをしかけ、継続して認め励ます。	〈具体的な手立て〉 ・学び方・学習習慣が身に付くよう見通しがもてるしかけをする。 ・自分の考えをもつ時間と、友達と学び合う時間を確保する。 ・「できた」「分かった」の喜びを実感できるような自己評価・相互評価・教師評価を工夫する。	〈具体的な手立て〉 ・「はマナー」生活の中で継続して意識させる。(さわやかあいさつ・廊下歩行・誰も一人ぼっちにしない) ・どの子にも居場所があり、活躍する場がある学級・学年集団をつくる。 ・いじめ・問題行動に対して迅速にチームとして対応する。

特別活動を要としたキャリア教育の推進【キャリアの視点に立った実践】



家庭との連携・協働

- ◎学校からの情報発信
- ◎家庭学習の充実
- ◎PTA活動
- ◎参観会・懇談会等
- ◎教育相談の充実(三者面談、SC、SSW)
- ◎望ましい生活習慣・あいさつの実践

地域とともにある学校

浜名小学校運営協議会
(コミュニティ・スクール)

- ◎ふるさと(地域)から学ぶ
- ◎学校からの情報発信(たより・HP)
- ◎学習ボランティア等の活用
- ◎安パト・自治会・健全育成会との連携
- ◎地域活動・行事への参加
- ◎気持ちのよいあいさつの励行

地域との連携・協働

(様式1)

令和8年4月28日

浜松市立浜名小学校
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会
代表 野末 将平 様

浜松市立浜名小学校運営協議会
会長 松島 一博

夢育やらまいか事業に対する意見書(案)

令和8年4月28日に開催した学校運営協議会において、下記の意見を議決しましたので報告します。

記

1 学校運営の基本方針を具現化するための意見

本校の学区には、様々な魅力をもった人材が多い。地域から専門的な知識・技能をもった方々を招聘し、活用すべきである。

- ①年4回のクラブ活動において、地域人材が魅力を発揮することができるクラブを設置し、活動に取り組んでいく。そして、地域の方々との触れ合いを通して豊かな心を育てていく。なお、設置するクラブは以下の通りである。「卓球」「手芸」「料理」「サバイバル防災」「お茶」「科学」「ボールゲーム」
- ②様々な職業に就く地域の方々を講師として招聘し、その生き方や考え方に触れる機会を設け、これからの社会を生き抜く子供たちが、自己肯定感を高め、自分らしさを発揮しながら生きていく力を育む。